



〈雑録〉強制的仲裁制度ノ利弊

松崎, 壽

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 23(1):144*-151

(Issue Date)

1917-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052739>



強制的仲裁制度ノ利弊

商學士 松崎 壽

本稿は The Annals of the American Academy of Political and Social Science, Jan., 1917 に看く Frank T. Carlton, The Advantages and Defects of Compulsory Arbitration ノ大意ヲ紹介シタルモノナリ

總テ資本ト勞力トノ關係ヲ調整セントスル或政策ノ利弊ヲ決スルニ當リテハ、先ヅ論者ノ立脚地ヲ明確ニ定メ置クコト極メテ必要ナリ。何トナレバ其結論ノ奈何ハ見地ノ相違ニヨリテ自ラ異リ來ラザルヲ得ザレバナリ。從ツテ今強制的仲裁制度ノ利弊ヲ論ズルニ際シテモ、亦斯ル理由ニヨリ予ハ先ヅ次ノ根本的條件ヲ提出シ置キ、此條件ニ反スル場合ハ非ナリトシ、然ラザル

場合ハ可ナリトシテ論斷セント欲ス。即チ(一)賃銀取得者ノ組織セル所謂職工組合ガ雇主ニヨリテ承認セラレ、其レト對等ノ地位ニ在リテ一切ノ勞働條件ヲ交渉スベキコトヲ第一ノ希望條件トス。但シ此場合ニハ政府ハ固ヨリ無關係ナル中立ノ態度ヲ採ルコトナク、法律ヲ以テ組合ヲ組織スベキ勞働者ノ權利ヲ承認スルコトヲ要ス。(二)勞働者ノ生活程度ガ絶エズ向上セラルベキコトヲ第二ノ希望條件トス。(三)勞働者ノ自助的精神及ビ其生活程度ノ向上ヲ犠牲ニ供スルコトナクシテ産業上ノ平和ノ得ラルベキコトヲ第三ノ希望條件トス。是レヲ以テ強制的仲裁制度ニ對スル予ノ結論ハ是等ノ根本的條件ノ全部又ハ一部ヲ承認セザル人ニヨリテハ歡迎セラレザルベク、又予ノ使用スル論法ハ此種ノ根本的主義ヲ前提トシテ判斷スルニアラザレバ恐ラク非難ヲ免レザルベシ。

元來仲裁トハ賃銀、勞働時間及ビ其他ノ勞働條件ニ關スル産業紛議ノ解決ニ對スル秩序的ノ

手續ヲ總稱スルモノニシテ、其利用ノ結果ハ自然ニ同盟罷工、非買同盟、工場鎖出、黒票等ノ戰鬪的手段ニ訴フルノ必要ヲ消滅セシム。但シ仲裁々判所又ハ仲裁局(Court or board of arbitration)ハ雇主、被傭者ノ何レヲモ代表セザル人ニヨリテ組織セラル、ヲ理想トスルモ、若シ利害ノ相反スル各當事者ガ會議ニ參加スルガ如キコトアラバ、勢力ノ均衡ハ他ノ局外者ニヨリテ保持セラレザルベカラズ。要スルニ仲裁局ノ裁定ハ同情又ハ利害關係等ノ念ヨリ超越セル人ニヨリテ下サルベキモノニシテ、勢力均衡ノ保持セラレザル會議ハ仲裁局タルノ資格ヲ有セザルモノナリ。通常仲裁制度ハ第一次的及ビ第二次的トモ稱スベキ二箇ノ一般的形式ヨリ成レルヲ看ル。此内第二次的形式トハ勞働條件ニ關シテ既ニ成立セル協約ノ解釋ヨリ生ズル爭議ニ關スルモノニシテ、之レニ反シ第一次的形式トハ賃銀、勞働時間及ビ其他ノ勞働條件其モノ、決定ニ關スル紛議ノ解決是ナリ。又仲裁ニハ任意

的ト強制的トアリテ、任意的ナルトキハ兩當事者ガ會議ノ裁定ヲ承認スルコトヲ要スルモ、強制的ナルトキハ法律ヲ以テ産業上ノ紛議ハ總テ之レヲ仲裁々判所又ハ仲裁局ニ提出スベキモノト規定シ、若シ其裁定ニシテ履行セラレズ、或ハ更ニ進ンデ同盟罷工、工場鎖出等ノ暴舉ニ訴フルガ如キコトアラバ當事者ハ刑罰ヲ課セラルベキモノトセリ。但シ本論ニテハ暫ク第一次的ノ強制的仲裁制度ノ批評ニノミ限リタリ。

仲裁制度ニヨリテ産業紛議ヲ解決スル政策ノ利益ハ容易ニ考慮スルヲ得ベシ。即チ仲裁制度ノ成功セルトキハ戰鬪的手段ヲ排シテ、社會的平和ヲ齎スノ效アルモノニシテ、之レガ爲メニ罷工鎖出、非買同盟等ノ弊害ハ自然ニ芥除セラレ、産業ノ發達ハ是等ノ一時的破壊ヲ免レテ順調ニ進捗スルヲ得ベキヤ勿論ナリ。想フニ仲裁制度ノ完成ハ一方ニハ職工組合ノ成立シ、他方ニハ雇主組合ノ存在シテ互ニ彼等ノ實力ニ訴ヘテ其主張ヲ貫徹セントスル粗野ナル直接的手段

ヲ廢シ、該爭議ニ關スル法律の竝ニ準法律の裁定ヲ以テ代ヘントスルモノニシテ、其狀恰モ往時ノ朋黨ノ爭若クハ決闘等ニ代フルニ今日ノ裁判制度ヲ以テセルト相似タリ。然ラバ翻ツテ仲裁制度ノ缺點ハ奈何ト云フニ、之ヲ闡明スルコトハ遙ニ困難ナル事業ナレドモ、兎モ角微細ナル眼孔ト且總テノ方面ヨリ觀察シテ解決スルノ外ナカルベシ。予ハ斯ル理由ニ基キ次ノ諸點ヨリ此問題ヲ考慮スルコト、セリ。

一、強制的仲裁制度ノ最モ著シキ缺點ハ賃銀率ノ決定ニ對シテ一般ニ承認セラルベキ確固タル標準ノ存在セザルニ基クコト是ナリ。現存セル如何ナル賃銀學說モ世人ノ満足ナル批評ト產業界ニ於ケル實際上ノ試驗ニ應答シ得ルモノナシ。從ツテ孰レノ仲裁局モ賃銀率ニ關スル正確ナル科學的標準ヲ作り、之レニヨリテ絕對的ニ確實ナル裁定ヲ下スコトハ不可能ナリ。其結果仲裁局ハ多ク賃銀ノ等級 (Wage scales) ヲ定ムルヲ以テ満足セルガ如シ。即チ各當事者ノ相反

セル要求ヲ解決スルニ當リテハ仲裁者ハ該工業ニ於テ從來幾許ノ賃銀ガ支拂ハレタリシヤ、又他地方ノ同種ノ工業ニ於テ現ニ幾許ノ賃銀ガ支拂ハレツ、アリヤ等ノ事實ニ依リテ判斷スルカ然ラザレバ該勞働者ニ對シテ相當ト考ヘラル、生活程度ヲ基礎トシテ裁定ヲ下シ得ベキノミ。然レドモ後者ハ生活程度ニ關スル一定ノ概念ノ存立セザル以上科學的ノモノトハ斷ズルヲ得ザルナリ。彼ノ米國ニ於ケル州際商業委員會ガ鐵道ノ賃率ヲ定ムルニ當リテハ計算ノ基礎的條項トシテ放資額、原價銷却額、市場利率、營業費等ノ具象的事實ヲ採用スルコトヲ得タルガ故ニ其裁定モ略ボ正鵠ヲ得タルモノナリシト雖モ、賃銀ノ決定ニ對シテハ斯ル基礎的條項ヲ求ムルコトハ固ヨリ至難ニシテ、生活ノ程度ト稱スルモ其實相ハ茫漠トシテ捕捉シ得ベカラザルナリオハイヨ州產業委員會ノ近年ノ報告ハ仲裁制度ノ根本問題ニ對シテ興味アル側面的觀察ヲ與ヘタリ。曰ク公正ナル產業上ノ正義 (Industrial

justice) ハ雇主ノ提案モ亦被傭者ノ要求モ其ニ考慮ニ入ル、コトナクシテ、寧ロ生産費、満足ナル生活程度ヲ維持スルノ費用、利潤分配額、及ビ其他一切ノ必要條件ヲ詳細ニ講究シタル後決定スルヲ適當トスト。蓋シ此方針ニシテ完全ニ達セラレタラバ恐ラク實際的困難ノ大半ハ解決セラル、ナラム。然レドモ是等ノ諸條件ハ果シテ遺憾ナク講究セラレ得ベキヤ、予ハ疑莫キヲ得ザルナリ。想フニ殆ンド總テノ産業上ノ紛議ハ直接間接ニ賃銀問題ニ觸接セルガ故ニ、仲裁制度ノ第一ノ缺墜ハ經濟學ノ現在ノ狀態ニ於テハ打破スルノ見込ナキ障害ヲ齎スモノニシテ假令理性ノ法則(Rule of reason)ヲ適用スルモ其正當ナル解決ハ依然トシテ困難ノ域ヲ脱スルヲ得ザルベシ。

二、從來産業紛議ノ解決策トシテ行ハレタル同盟罷工、非買同盟又ハ集合契約等ノ手段ニ代フルニ仲裁制度ヲ以テスルコトハ職工組合ノ基礎ヲ薄弱ナラシメ、或ハ少クトモ斯ル組織ノ成

立ト目的トヲ制限スルノ傾向アルベシ。此理由ハ之レヲ認識スルコト左迄困難ニハアラズ。元來職工組合ノ組織ハ集合契約若クハ戰團的手段ニヨリテ高キ賃銀、短キ勞働時間竝ニ其他ノ勞働條件ノ改善ヲ圖ランガ爲メニ案出セラレタルモノニシテ、組合員ハ此種ノ組織ガ彼等ノ要求ヲ貫徹スルニ必要ナル防禦的機關タルコトヲ認識スル場合ニ於テノミ、組合ニ加入シ且ツ其規約ニ服従スルモノナリ。然ルニ若シ仲裁制度ガ賃銀率ヲ決定スルノ有效ナル方法トシテ承認セラル、ニ至ラバ組合ノ必要ハ普通ノ勞働者ニ對シテハ著シク減少スベク、又仲裁制度ニ依頼スルノ慣習ハ勞働者ノ間ニ於ケル自助的精神ノ發達ヲ妨グルニ至ルベシ。勿論或見地ヨリセバ此點ハ仲裁制度ノ缺點ニハアラズシテ寧ロ利益ナリト看ルコトヲ得ベシ。然レドモ大體ニ於テ自助的精神ガ勞働條件ヲ決定スルニ際シテノ主動的要素トナル事ヲ識ラバ、之レト兩立セザル仲裁制度ハ必ズシモ勞働者ノ幸福ヲ齎スモノト稱

スルヲ得ザルヤ明カナリ。

三、仲裁制度ハ局外者ノ介入ヲ意味スル中立制度ナリ。從ツテ局外者即チ公衆ヲ代表スルモノト認メラル、仲裁局ノ委員ハ原則トシテ産業ノ狀態ヲ熟知セズ。實ニ此現象ハ嚴重ナル批評ニ應答シ得ベキ科學的裁斷ヲ形成スル所ノ困難ヲ誘致スルモノニシテ、而シテ又其ハ當事者ヲシテ仲裁局ノ裁定ニ信賴ヲ置カシメザルノ素因トナルベシ。要スルニ勞働者ハ彼等ノ生活ニ於ケル最モ重大ナル問題ノ解決ヲ殆ンド産業狀態ニ關シテ何等ノ知識ヲ有セザル第三者ニ依賴スルノ危險ヲ自覺シテ其實行ヲ躊躇スベキナリ。

四、仲裁局ノ手續ハ總テノ點ニ於テ普通裁判所ノ其レニ酷似セルガ故ニ、較モスレバ先例ニ因ハル、ノ弊害尠ナカラズ。勞働者ハ常ニ高キ生活程度、高キ社會的地位ヲ獲得セントシテ階級的戰爭ニ從事シツ、アルモノナルガ故ニ、彼等ノ團體タル職工組合ハ先例ヲ偏重シテ向上的精神ヲ尊重セザル如キ機關ニ對シテハ疑惑ノ眼

ヲ以テ時セザルヲ得ズ。何トナレバ勞働者ニ對スル先例ト云ヘバ乃チ低キ生活程度ト低キ社會的地位トヲ意味スルモノニ外ナラザレバナリ。總テ勞働者ハ男女ヲ問ハズ從者ノ階級 (Servant class) ヨリ脱セント努力シツ、アルモノニシテ彼等ハ自己ノ從事セル企業ニ於テ雇主又ハ支配人ト同等ノモノト認メラレンコトヲ要求セルナリ。即チ勞働者ハ勞力ト資本トガ共ニ産業ニ於ケル一切ノ條件ヲ決定スルニ就キ同一ノ發言權ヲ有スルニ至ルノ日ヲ期待シ、又被傭者ノ代表者ガ重役團ノ會議ニ參加シ得ルノ時ヲ切望セルナリ。然ルニ強制的制度ハ斯クノ如キ向上ノ機會ヲ減少セシムルノ危險アルモノニシテ、是レ勞働者ノ憂慮ニ堪ヘザル所ナリトス。固ヨリ場合ニ由リテハ法律上ノ解釋ハ必ズシモ劃一的ノモノトハ限ラザレドモ、斯ル場合ニ於テハ却テ朝令暮改ノ弊ナキニアラズシテ、仲裁局ノ裁定ガ個人的偏見ニ左右セラル、ガ如キコトアラバ其危險ハ一層大ナルモノト稱セザルヲ得ザルナ

リ。

五、仲裁局ノ裁定ガ特ニ勞働者ノ利害ニ相反スルトキハ其強制ハ非常ノ困難ニシテ、其結果ハ恐ラク多數ノ勞働者ヲ罰スルノ奇觀ヲ呈スルニ至ルナラム。米國ニ於テハ又二三ノ重要ナル半官半民ノ産業ニ於テノ外、強制的仲裁制度ヲ規定セル法律ノ適用ハ恐ラク憲法違反ト宣セラ、ニ至ルナラム。

其他仲裁制度ニ關シテ特ニ擧グベキ弱點ト缺點ハ雇主、被傭者ノ相方共之レニ對スル確固タル賛否ノ意見ヲ有セザルコト是ナリ。從ツテ彼等ハ場合ニヨリ事情ニ應ジ仲裁制度ニ對シテ同一ノ態度ヲ採ラザルガ如ク、例ヘバ職工組合員ハ或場合ニハ仲裁ヲ要求シ、又或場合ニハ此種ノ提案ヲ拒絕スルコト少ナカラズ。同様ニ雇主モ或ハ仲裁制度ヲ稱揚シ、或ハ之レヲ輕侮シテ毫モ一貫セル態度ヲ發見スルヲ得ザルガ如シ。而シテ雇主ハ米國ノ鐵道業ニ於ケル如ク職工組合ノ強大ナル場合ニハ仲裁制度ニ哀訴スルモ、

職工組合ノ薄弱ナルカ、或ハ全ク斯ル組合ノ存立セザル産業ニ於テハ局外者ノ干渉ヲ受クルノ必要ナシト豪語スルヲ常トセリ。數年前紐育市街鐵道會社ノ社長ガ同會社ノ被傭者ニ對シ、『汝等ハ予ノ從僕ナリ、從ツテ予ト從僕トノ間ニ仲裁制度ノ存スベキ理由ナシ』ト公言セルコトアリキ。然ルニ昨一九一六年ノ罷工當時ニ於ケル各鐵道會社ノ幹部ノ態度ハ如何ナリシゾ、彼等ハ單ニ汲々トシテ仲裁制度ニ訴フルノ外策ノ出ヅルモノナキ有様ナリキ。然ルニ勞働者側ハ斷乎トシテ仲裁手段ヲ拒絕シ、爲メニ罷工ハ一層ノ増大ヲ來タシタリ。尙近年濠洲ニ於ケル強制仲裁制度ノ發達ハ其一因ヲ雇主ガ強大ナル職工組合ニ對シテ自己ノ利益ヲ擁護セントシタル要求ニ歸スベキモノナリト雖モ、一八九四年新西蘭ニ於テ制定セラレタル當初ノ仲裁の立法ハ職工組合員ニヨリテ首唱セラレ、雇主ニヨリテハ却テ反對セラレタルガ如キ奇觀ヲ呈シタリキ。思フニ産業紛議ノ解決ニ關スル或政策ニシテ

根本的ニ何等ノ缺點ヲ有セザルモノハ存セザルベシト雖モ、而カモ予ノ見解ニ於テハ強制的の仲裁制度ノ弊害ハ其利益ヲ抹消シテ尙餘リアルガ如ク思ハル。然レドモ一步ヲ退キテ更ニ考フレバ、雇主モ職工組合モ共ニ集合契約或ハ其他ノ比較的穩和ナル手段ニヨリテ紛議ヲ解決スルヲ得ズ。勢ヒ戰鬪の手段ニ依頼セザルヲ得ザルガ如キ場合ニ於テハ以上ノ如キ利弊ヲ有スル強制的の仲裁制度若クハ加奈陀ニ於テ實施セラル、同種ノ制度モ亦法律上ノ救済策トシテ採用セラルベキコトハ蓋シ止ムヲ得ザル所ナルベシ。例ヘバ最近ノ米國ニ於ケル大鐵道及ビコロラド炭坑ニ勃發セル如キ大罷工ノ場合ニ於テハ社會的の平和ニ對スル要求ハ或種ノ立法的手段ヲ必要トスベキヤ明カナリ。

叙上ノ判斷ニシテ幸ニ大過ナシトセバ、之レヨリ得ベキ結論ハ即チ雇主ノ組合及ビ勞働者ノ聯合ガ集合契約ニヨリテ産業上ノ紛議ヲ解決シ斯クシテ階級的の戰爭ヲ回避スルノ不可能ナルコ

ト明瞭ナルニ至ラバ、法律ノ規定ニヨリ局外者ニヨリテ勢力均衡ノ維持セラル、和解局ノ裁定ニ從ヒテ該爭議ヲ解決スルノ外他ニ良策ナカルベシト云フニ歸ス。固ヨリ裁判所類似ノ制度ヲ以テ個人間竝ニ團體間ノ紛議ヲ解決スルノ方法ハ決シテ十全ナルモノニハアラズ、夫ハ中世ノ干渉制度ノ復活ナリトモ稱スルヲ得ベシ。然レドモ上述ノ如ク勞働者竝ニ雇主ノ組合組織ニシテ産業上ノ平和ヲ齎スコト能ハザレバ、多少ノ弊害若クハ結果ノ如何ハ之レヲ顧慮スルニ暇ナク、暫ク該制度ヲ以テ満足セザルベカラズ。之レヲ要スルニ強制的の仲裁制度ハ決シテ適確ニ社會的の平和ヲ將來スルモノニハアラズシテ、此制度ノ權興タル新西蘭及ビニュージーランド、サウス、ウェールズニ於テモ必ズシモ成功ヲ齎シタルモノニハアラザリキ。翻ツテ合衆國ノ現狀ヲ看ルニ、職工組合ノ政治的の勢力ハ未ダ薄弱ナルヲ免レザルガ故ニ強制的の仲裁制度ノ實施ヲ必要ト信ズル論者ハ少ナカラザルベク、予モ亦斯ル事情ノ下ニ

於テハ此種ノ立法ガ國民ノ産業的利盆ノ爲メニ
好マシカラヌモノトシテ之ヲ排斥シ去ルヲ得
ザルナリ。
